

名作展「健剛と絢爛—川端龍子の作品における装飾性—」

併催：町立湯河原美術館収蔵 平松礼二作品展

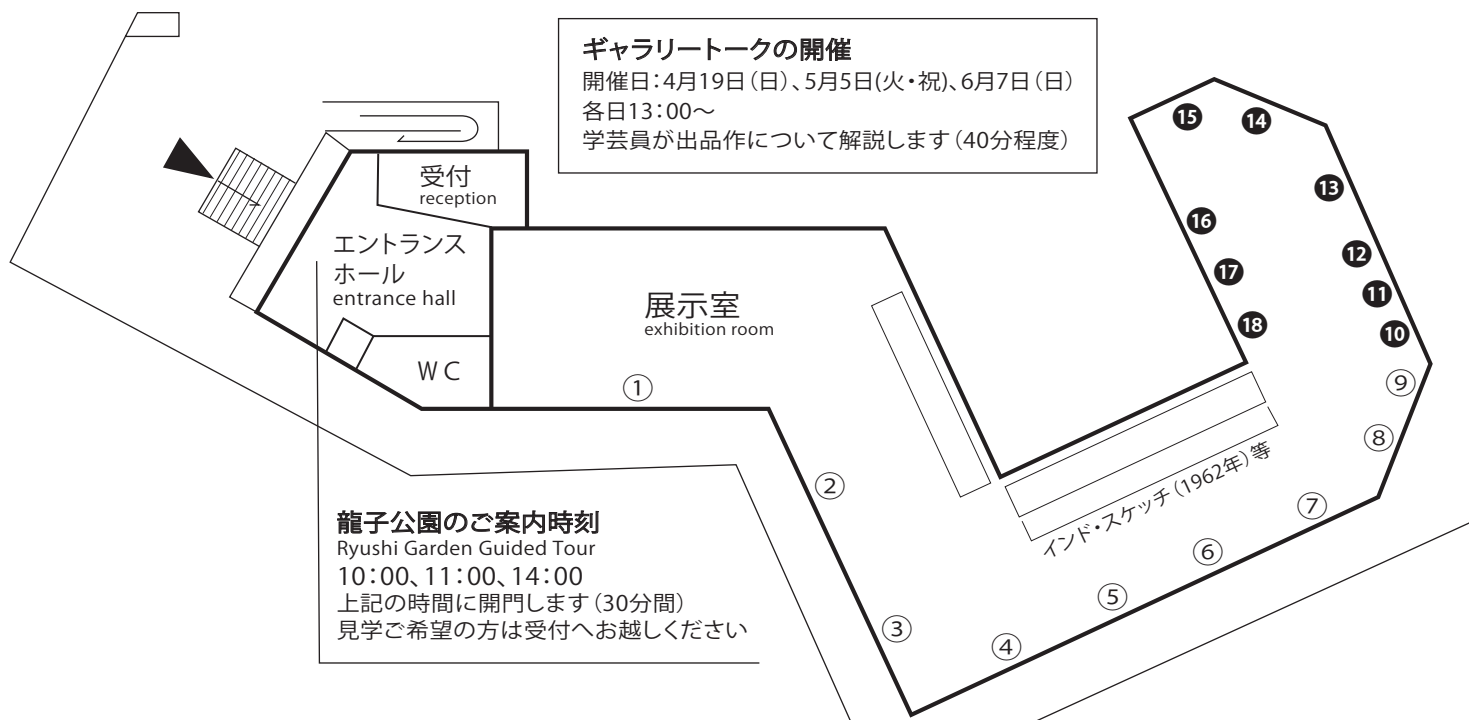
2026年3月28日(土)～6月7日(日)

Kawabata Ryushi Exhibition “Regarding the decorativeness of his works” | March 28 – June 7, 2026

Concurrent Exhibition: Works of Hiramatsu Reiji from the Yugawara Museum of Art Collection

When Kawabata Ryushi established the Seiryusha Group art circle, he touted the importance of “rugged art.” With this as their slogan, Ryushi led the Seiryusha Group and its young artists for over 30 years. However, alongside his works expressing this “ruggedness,” Ryushi also produced glamorous works demonstrating the rich decorativeness that has been fostered within Japanese art. This exhibition explores Ryushi’s view of art through the lens of the “ruggedness” and “glamour” seen in his work.

An exhibition of the works of Hiramatsu Reiji from the Yugawara Museum of Art collection will be held concurrently with this exhibition. Hiramatsu is a Japanese painter who studied under Ryushi. In recent years, he has been active both in Japan and abroad.



川端龍子 展示作品

Works of Kawabata Ryushi

作品名	Title	制作年/年齢	サイズ(縦×横)	形状	出品展
①「龍子垣」	Ryushi Hedge	1961年(76才)	242.0×729.5 cm	紙本彩色 額装・六枚一面	第33回青龍展
②「孫悟空」	Sun Wuk'ung, Monkey With Divine	1962年(77才)	243.0×728.0 cm	紙本彩色 額装・六枚一面	第34回青龍展
③「一天護持」	Zao Gongen Guarding the Heaven	1927年(42才)	348.6×223.6 cm	絹本金彩色・額	再興第14回院展
④「草の実」	Seeds of Grasses	1931年(46才)	各 177.2×382.7 cm	絹本彩色 屏風・六曲一双	喜寿記念第3回 龍子の歩み展
⑤「山百合」	Lilium Auratum	1946年(61才)	77.6×103.0 cm	絹本彩色・軸	第6回青々展
⑥「涼露品」	Hérons in a Lotus Pond	1952年(67才)	241.5×722.5 cm	紙本彩色 額装・六枚一面	第24回青龍展
⑦「茸狩図」	Mushroom Hunt	1936年(51才)	243.5×485.0 cm	紙本彩色 額装・四枚一面	改組第1回 帝国美術院展
⑧「水中梅」	Plum Blossoms in Water	1947年(52才)	134.2×72.7 cm	絹本彩色・額	憲法記念現代展
⑨「睡蓮」	Water Lily	1937年(52才)	251.5×191.0 cm	絹本彩色 屏風・二曲一双	第9回青龍展

平松礼二 展示作品 Works of Hiramatsu Reiji

作品名	Title	制作年	サイズ(縦×横)	形状	所蔵
⑩「桜花散る・ジャポン」	Sakura Falling, Japon	2003年	97.0×145.5 cm	紙本彩色・額	町立湯河原美術館 寄託
⑪「モネの池に蛙遊ぶ」	Jumping Frog at Monet's Pond	1998年	112.1×162.1 cm	紙本彩色・額	町立湯河原美術館 寄託
⑫「モネの池・秋冬図」	Monet's Pond, Autumn and Winter	2002年	162.1×227.3 cm	紙本彩色・額	町立湯河原美術館 寄託
⑬「東海富士図」	Mt. Fuji Viewed From Tokai	2006年	180.0×360.0 cm	紙本彩色 屏風・六曲一隻	町立湯河原美術館蔵
⑭「早春図」	Early Spring	2008年	172.0×344.0 cm	絹本彩色 屏風・四曲一隻	町立湯河原美術館蔵
⑮「路(A)」	Paths (A)	1977年	160.0×168.0 cm	紙本彩色・額	町立湯河原美術館 寄託
⑯「紅白不二」	Red and White Mt. Fuji	2009年	116.7×80.3 cm	紙本彩色・額	町立湯河原美術館蔵
⑰「梅の宴」	Plum Banquet	2011年	80.3×116.7 cm	紙本彩色・額	町立湯河原美術館蔵
⑱「春の光・鯉」	Spring Glow and Carp	2015年	90.9×116.7 cm	絹本彩色・額	作家蔵

■日本画家・平松礼二(1941-) 「現代の琳派」と称えられるその作風

日本画家・平松礼二(本名・邦夫)は、50歳の頃にフランス・オランジュリー美術館でモネの「睡蓮」の連作に魅せられ、「印象派・ジャポニスムへの旅」をテーマに現在に至るまで作品発表を続けています。そして、2013年には、フランス公立ジベルニー印象派美術館で「睡蓮の池・モネへのオマージュ」展を開催、2021年にはフランスの芸術文化勲章シュバリエを受章しました。また、2025年7月に就航したクルーズ客船「飛鳥III」には、船内を彩る作品を提供する等、国内外で活躍しています。

その平松礼二の画歴の出発点は、川端龍子が主宰した青龍社にあります。青龍社の横山操に憧れ、1960年の19歳の時、青龍展に《廃船》で入選した平松は、1962年には構成員である社子に推挙され、青龍社が解散する1966年まで龍子のもとで教えを受けています。本展では、町立湯河原美術館の協力のもと、平松が内側に湧き上がってくるイメージをライフワークとして描き続けた「路」シリーズや、日本画の源流からヨーロッパへとその視野を広げた「モネの池」シリーズ、さらに「現代の琳派」とも称される装飾性豊かな作品群を展示します。本展開催にあたり、平松は「川端龍子という存在は、声も手も届かない崇高な山のような存在でした。でもいつかはよじ登ってみたいと思っていました」とその意気込みを語っています。

○イベント

おしゃべり鑑賞会(対話型鑑賞プログラム) ※要電話予約(03-3772-0680)

開催日:3月30日(月)、4月20日(月)、5月25日(月) 各日14:00から

協力:社会福祉法人 大田区社会福祉協議会 会場:龍子記念館 展示室

地域連携事業「風薫る美術館コンサート」

日時:5月24日(日)18:30～19:30 会場:龍子記念館 展示室内

地域連携企画 講演会「日本画家・平松礼二が語る 青龍社の時代と川端龍子」

日時:5月17日(土)13:30～15:00 会場:大田文化の森 第3・4集会室

○展覧会の紹介動画をYouTubeで順次公開しています

龍子記念館では、展覧会や作品紹介の動画を作成し公開しています。展覧会やギャラリートークに来られない方もご自宅にいながら龍子作品をお楽しみいただける内容となっています。

○次回の名作展会期 2026年6月20日(土)～8月23日(日)



「風薫る美術館」コンサートのお申込みは、  
こちら  
(5月8日(金)必着)



講演会「日本画家・平松礼二が語る青龍社の時代と川端龍子」のお申込みは  
こちら  
(4月28日(火)必着)



龍子記念館の動画は、  
大田区文化振興協会の  
YouTubeチャンネルから